

●ウイスキー・ラベル物語-17

米市場と係わり続けるカナディアン・ウイスキー



か わい だし
河 合 忠
Tadashi KAWAI

カナディアン・ウイスキー (Canadian Whisky) の歴史は、同じ北米大陸に属する米国におけるアメリカン・ウイスキーの歴史に比べると、比較的新しく、ウイスキー造りが始まったのは1769年とされている。その後のカナディアンの順調な市場拡大は、米国に依存するところが大きく、現在でもカナディアンの約70%は米国で消費されている。それは、カナダの建国の歴史と地理的条件と深く係わっている。



英仏移民間の争いで始まったカナダの建国

北米大陸に人が足を踏み入れたのは、3万5千年前、当時陸続きであったアジアからとされている。約4千年前にエスキモーがグリーンランドに定住し始め、インディアンと共に長い間、北米大陸に先住していた。西暦1000年頃、バイキングがカナダの北東部に一時上陸したとの記録があるが、定住するに至らなかった。

1497年、英国のヘンリー7世の命を受けたイタリア人探検家ジョン・カボット (John Cabot, Giovanni Caboto, 1450 ~ 1498年) がケープ・ブレトン島 (Cape Breton Island; ノバ・スコシア半島の北東) に上陸した。1534年、フランスの探検家ジャック・カルティエ (Jacques Cartier) がセント・ローレンス湾 (Gulf of St. Lawrence) を発見し、その後、英国とフランスからカナダ北東部への移住が始まった。米国東海岸のジェームズタウンに英国の植民地が誕生したとほぼ時を同じくして、1608年シャンプラン (Champlain) らによってケベック (Quebec) に植民地が建設され、1534 ~ 1763年

で New France と呼ばれていた。しかし、その後、フランスは先住民や英国移民との争いが絶えず、遂に1759年、ウォルフ (Wolfe) らによりケベックが奪取され、インディアンとの長い戦い (French and Indian Wars, 1689 ~ 1763年) にも破れた。また、フランスは、米国南部のルイジアナを中心に起こった英国との7年戦争 (Seven Years' War) にも敗北した。こうした北米大陸における英仏間の争いを背景に、1763年のパリ平和条約の締結によってカナダはフランスから英国に譲渡され、英国の支配下に入った。



米国の独立運動で多数の英国人がカナダへ移住

18世紀後半米国東海岸を中心に高まりつつあった反英感情は、1773年のボストン茶会事件から一気に爆発し、1775年アメリカ連邦が旗揚げした独立戦争は1783年まで続いた。こうした反英感情に同意できない英国王室支持者 (Loyalists) の多くはカナダ、とくに東海岸のニュー・ブランズウィック州 (New Brunswick) やオンタリオ州 (Ontario) 方面へとなだれ込んだ。

英仏移民間の対立が激化して、1791年、英語圏のオンタリオ州を中心とした「上のカナダ (Upper Canada)」と仏語圏のケベック州を中心とした「下のカナダ (Lower Canada)」の2地区に分離し、この対立は1840年の統一政府誕生まで続いた。その影響は現代まで引き継ぎ、カナダは英仏の2つの言語が公用されている (写真1)。ただし、ケベック州については例外で、フランス語が唯一の公用語と定められているが、17%の住民は英語を話す人たち



写真1 英仏語で併記されているカナディアン・ウイスキーのラベル
 オンタリオ州ベルビル (Belleville, Ontario, Canada) にある J.P. ワイザー社 (J. P. Wiser Distillery Ltd.) により造られたライ麦を主原料としたカナディアン・ライのワイザーズ・デラックス (Wiser's De Luxe)。ラベルの上部中央には王室のロゴに「W」を挿入した会社のマークを印刷し、王室ご用達であることを英語で左、仏語で右に記載している。「Canadian Whisky Canadien」と英仏語でカナディアン・ウイスキーと書かれている。中央には「10年」と仏語で左、英語で右に、さらに「カナダ政府指導の下に蒸留、熟成、瓶詰された」と最初の2行に英語、その下に仏語で書かれている。

である。

1812年には米国から英国領への侵略があり、3年間の戦いの後に米国軍は退けられ、カナダ東部は英国政府による支配が確定し、さらに1867年には自治権を獲得し、英連邦の自治領 (Dominion) となった。

一方でカナダ東部における分裂が続く中で、1793年には西海岸に英国の探検家で、毛皮貿易商人のアレキサンダー・マッケンジー (Alexander Mackenzie, 1755～1820年) が上陸し、カナダ北西部への移住が拡大した。ブリティッシュ・コロンビア州 (British Columbia) が1866年に誕生したのについて、カナダ南部諸州が次々とカナダ連邦に加盟した。一部の独立派が蜂起した北西部の反乱も1885年には鎮圧され、同年カナダの南部を横断するカナダ太平洋鉄道 (Canadian Pacific Railway) の完成によりモントリオールまで鉄道が連結し、文字通りカナダは独立国としての地歩を固めて経済的にも急速に発展した。1931年にはウエストミンスター条例により完全な自治権を獲得し、名目的な英国政府の総督の下で、カナダ国内閣が実質的に主権をもつ現在の形態へと発展した。



米国と広大な水域で国境を接するカナダ

カナダは、アラスカを除いた北米大陸の約3分の

1を占め、北極圏の群島を併せると、ロシアに次いで世界第二の広大な土地を有している。現在は10州 (Provinces) と2つの準州 (Territories) からなる。北部にはユーコン準州 (Yukon Territory) とノースウエスト準州 (Northwest Territories) がある。米国に接する南部には、太平洋岸からブリティッシュ・コロンビア州 (British Columbia)、アルバータ州 (Alberta)、サスカチワン州 (Saskatchewan)、マニトバ州 (Manitoba)、オンタリオ州 (Ontario)、ケベック州 (Quebec)、ニュー・ファンドランド州 (Newfoundland)、プリンス・エドワード島 (Prince Edward Island)、ノバ・スコシア州 (Nova Scotia)、ニュー・ブランズウィック州 (New Brunswick) がある。米国とは南西部で北緯49度線、南東部で四大湖で接している。両国国境の実にはほぼ5000kmが湖と川の水域により占められており、さらに、大小無数の川が国境を通過し、それらの尾根伝いに密輸ルートが存在していた。

いわゆる北米五大湖 (Great Lakes) は、西からスペリオル湖 (L. Superior)、ミシガン湖 (L. Michigan)、ヒューロン湖 (L. Huron)、エリー湖 (L. Erie) 及びオンタリオ湖 (L. Ontario) である。ミシガン湖のみは米国領内にあるが、実質的にヒューロン湖と繋がっており、エリー湖とオンタリオ湖はナイアガラ川及びバイパスのウエランド運河で繋がっており、国境線となっている。さらに、ヒューロン湖とエリー湖を繋ぐデトロイト川とセント・クレール湖が国境となっている。すなわち、五大湖は世界の湖水量の実に20%を占めるほど巨大で、しかもすべて水路が連結した両国の重要な交通路となっている。後述するように、四大湖の広大な水域に加えて、デトロイト川を挟んだ国境を介して、カナダと米国の間で合法的にも非合法的にもウイスキーの取引が行われてきたし、今ではウインザーとデトロイト間にトンネルが作られて、ますます重要な一大流通ルートとなっている。



カナディアン・ウイスキーの誕生

英国移民による植民地がカナダにも広がったことから、当然スコッチの技術が持ち込まれて蒸留酒造りが行われていたことは容易に理解できよう。記録に残っている最初の蒸留器がカナダに持ち込まれた

のは1769年、ケベックとされている。しかし、Association of Canadian Distillers (<http://www.canadiandistillers.com>)の記録によると、カナダの最初の蒸留所が創業したのは1799年、John Molsonによるとされており、1840年代には200以上の蒸留所が営業していたという。開拓時代には公式の通貨が未だ完成していなかったことから物々交換が主流を成し、北米大陸で生産される大量のコーンやライ麦を製粉する報酬として、それらの穀物の一部を製粉所が受け取る習わしが一般的であった。18世紀後半に多くの移民が米国東部から移住したことから、穀物の過剰生産が一層深刻となっていた。そうして得られた大量の穀物処理する方法の一つとして、製粉所が蒸留器を購入して、先住民や移民の間で人気の高いウイスキー造りを始め、多くの蒸留所が続々と誕生した。

カナダへの初期の英国移民が主としてスコットランドからであり、必然的にカナディアン造りかたも基本的にはスコッチの製造法とほとんど同じであり、ウイスキーの英語綴りも“e”の入らないwhiskyである。

当時のウイスキーは、英国や米国でもそうであったように、今日の芳醇な香味をもったものとは大きく異なり、蒸留後1-2日で市場に出荷されていた。初期には糖蜜などから作ったラム酒(rum)が多かったが、北米大陸で大量に生産されるコーン、ライ麦、大麦などの穀物から作られた蒸留酒、すなわちウイスキーを混ぜて口当たりのよいカクテルとして消費されていたようである。毛皮商人が取引中に、こうしたウイスキー・カクテルがインディアンの間でも評判が高いことに目をつけ、しかも常習癖に陥ったインディアンと不当に広大な土地の取引に使われていたという。その一つのカクテルの記録を見ると、「ウイスキー・噛みタバコ・ジンジャー・赤胡椒・糖蜜・赤インク」の混合物であり、“fire-water”として人気があったというから、多くの移民や先住民が麻薬同様の中毒症状に苦しんだと推定される。

米国との盛んな貿易を通して、カナディアンはライ麦主体から変貌し、コーンを主体とした軽いウイスキーとのブレンドによって、独特の柔らかさと軽いブレンドを作り出して、世界市場へと拡大し、今では世界5大ウイスキーの一つとしての地歩を築

いていったのである。



禁酒法によるカナディアンの飛躍的成長

米国のウイスキー造りが盛んであった1870年代と1880年代には、大量のバーボンが非合法的にカナダに密輸されていたが、もっとも有名なウイスキー貿易拠点となったのがアルバータ州の「大騒ぎの砦(Fort Whoop-Up)」であったという。米国のモンタナ州から、ミルク川の尾根伝い(Milk River Ridge)にアルバータ州のレスブリッジ(Lethbridge)へのルートで持ち込まれた。こうした密輸に手を焼いたカナダ政府は1873年5月23日、北西部騎馬警察隊(Northwest Mounted Police)を発足し、ウイスキー密輸の掃討に乗り出した。しかも、山岳地帯の地形に詳しいインディアンのリーダーを参画させたことが成功し、やがて山岳地帯国境を越えた密輸は沈静化した。

米国の禁酒法時代(1920~1933年)に入ると、米国でのウイスキー造りはほとんど停止した。それにも拘らず、偽のアイリッシュの密造や他国からの密輸によって、禁酒法施行2年後にはウイスキーの消費量が元に戻ったという。“天下の悪法”といわれた禁酒法によって、アル・カポネなどの闇の組織がはびこり、膨大な利益を貪ることになったことは、以前にも述べたとおりである。ほとんどの米国の蒸留所は閉鎖し、英国からの合法的輸入が完全に停止し、とくにアイリッシュは壊滅的な打撃を受けた。その反面、カナダからの密輸が大幅に増大し、そのためにカナダのウイスキー業界は禁酒法の恩恵を受けて飛躍的な成長を遂げた。カナダから米国への密輸ルートは、国境となっている湖とデトロイト川の水域であった。広大な湖面を利用し、夜間に紛れて高速船を利用した密輸ルートの摘発は困難を極めたことは言うまでもない。とくに、川幅2kmのデトロイト川を挟んで、カナダ側のオンタリオ州のウインザー(Walkerville in Windsor)で生産されたカナディアン・クラブが対岸の米国デトロイト市に大量に密輸された。しかも、警察船のパトロールの際を狙った高速船による忍者まがいの運搬ルートを完全に封鎖することは極めて困難であった。禁酒法施行後の1924年当時、米国に密輸されたウイスキーの約3分の2、実に約4千万ドル相当のカナディアン

が持ち込まれたという。

ウイスキーの密輸で暗躍したアル・カポーネ (Al Capone) が米国では有名となったことは前述した。もちろん、彼らの闇の組織だけが巨利を貪ったわけではなく、その他にもさまざまな企業が暗躍したことは言うまでもない。例えば、シーグラム社 (Seagram's Distilling Company) は、1927年、ブロンフマン兄弟 (Samuel and Alan Bronfman) により買収され、1928年に彼らによって設立された新会社、The Distillers Corp. が大量のカナディアン取引を手がけ、膨大な利益を挙げた。他に、禁酒法時代に設立されたシェンリー社 (Schenley's) も密輸に大きくかかわった。そして、禁酒法が廃止されると、米国の蒸留所によるウイスキー生産が軌道に乗るまでの隙間を縫って、大いに合法的な輸出でさらにカナディアンの評判を勝ち取っていった。現在では、シーグラム社は蒸留所業界トップの規模となり、最も人気の高いカナディアンのブランド品として、VO やクラウン・ロイヤル (Crown Royal) (写真2) などがある。



写真2 Joseph E. Seagram & Sons, Ltd. で造られたブレンド・カナディアン

クラウン・ロイヤル (Crown Royal) のボトルのラベルには王冠が誇らしげに印されているが、英国国王がカナダを公式訪問した際に献上品として作られたブレンド・カナディアンである。

近年は、再度、米国からカナダへの密輸が問題となっており、沿岸警備隊によると実に年間5000万本にも及ぶと推定されている。その主な理由は、カナダの酒税が83%であるのに対して、米国では44%と低いためとされている。



カナディアンの特徴

カナディアンの初期のものは主としてライ麦を主体とするヘビーなものであったが、独立反対派の英国移民が米国東部からどっと流れ込み、穀物の生産量も飛躍的に多くなるにつれて、コーンの混入量も増し、徐々に軽いカナディアンへと変わって独特の香味が出来上がっていった。すなわち、ライ麦を主体とし、コーンや大麦麦芽を加えて発酵させたフレーバリング・ウイスキー (flavoring whisky) とコーンを主体とし連続式蒸留器によって造られるアルコール度の高いベース・ウイスキー (base whisky) をブレンドする製法が定着していった。

現在、カナダ政府によるカナディアンの定義は、「穀物を原料に、酵母により発酵し、カナダで蒸留し、最低3年間小さな樽 (180リットル以下) で貯蔵したもの」とされており、原料の穀物としては、一般的にコーン、ライ麦、大麦麦芽である。ただし、原料の穀物にライ麦が51%以上使われている場合には、「ライ・ウイスキー」の表示が許されているが、実際はブレンドされており、米国のストレート・ライ・ウイスキーとは全く異なる製品であるから、世界市場ではやや混乱を招いている。それらの特徴をもとにカナディアンは表1のごとく分類されている。

表1 カナディアン・ウイスキーの種類

ベース	特徴	タイプ			ラベル表示
フレーバリング・ウイスキー	原料は、一般的にライ麦、大麦麦芽、コーンの3種類で、ライ麦が主体。単式蒸留器 (ポットスチル) または連続式蒸留器で蒸留を重ねアルコール度数約84%	フレーバリング・ウイスキー			ベース・ウイスキーとブレンドしないで製品化されたもの
ベース・ウイスキー	コーンを主体とし、連続式蒸留器で造られた高純度アルコール (94~95%) を水で薄めたもの；古樽で3年以上の熟成が義務付けられている	ブレンド・ウイスキー	フレーバリング・ウイスキーとベース・ウイスキーをブレンドしたもの	ライ・ウイスキー	原料にライ麦51%以上使用するとライ・ウイスキーと表示できる
				ブレンド・ウイスキー	原料にライ麦が51%未満のものは、通常ブレンド・ウイスキーで、とくにラベル表示なし



カナディアン・クラブの創立者、ハイラム・ウォーカー

現在、カナダにある蒸留所は11で(表2)、実際にウイスキーを生産しているのは10箇所であり、そのいくつかのボトルを写真3, 4に掲載した。米国で最大のシェアを誇っており、しかも世界に売って出た最初のカナディアンは「カナディアン・クラブ(Canadian Club)」であり、僅かの差で追い上げているのがシーグラム社のVOであるという。ユニークな歴史をもつカナディアン・クラブについて少し触れておくことにしよう。詳細については、<http://www.canadianclubwhisky.com>を参照されたい。

Hiram Walker & Sons, Ltd. の創立者は、社名の通りハイラム・ウォーカー(Hiram Walker)という若い米国人実業家である。彼は1816年、米国東海岸の小さな町ダグラスで生まれ、9歳で父親を亡くし、少年時代は貧しい生活を送ったという。18歳でボストンに単身赴任、間もなくデトロイトに



写真3 カナディアン・ブレンデッドと
カナディアン・ストレート

左は、「KINGSGATE RESERVE」ブレンデッド・カナディアンで、Morrison Distiller, Grimsby, Ontarioで造られている。ラベルの中央上部には「王の扉」の名にちなんだロゴが記されている。

右は、「BUSH PILOTS」(未開拓地のパイロット達)と名づけられ、シングル・カスク・カナディアン・ウイスキーと書かれており、生産責任者の署名とボトル番号が記されておりブレンデッドでないことを明記してある珍しいブランド品である。

表2 カナダのウイスキー蒸留所

蒸留所名	主な生産ブランド品*	説明
Alberta	Canadian Spirit Rye (7), Canadian Gold (3), Alberta Premium (5), Windsor (3)	アルバータ州カルガリ近郊；本当のカナディアン・ライを生産；一般的に強いフレーバを有する
Canadian Mist	Canadian Mist (4)	トロントの北西で、スベリオル湖の湖岸の町 Collingwood；Brown-Forman 社の所有；米国で一番の売上
Cascadia/Potter's	Bush Pilot (13), Potter's Old Special, Royal Canadian Whisky	ブリティッシュ・コロンビア州の南部の村 Kelowna；古いシェリー樽で熟成し、軽い甘味で有名；少量生産
Gimli	Seagram's Crown Royal, Seagram's VO (6), Lord Calvert (3), Canadian Hunter, Five Star	マニトバ州のウイニペグ湖の町 Gimli；Seagram 社のカナダで唯一の蒸留所；さまざまなカナディアン蒸留所で生産されていたブランドを生産
Glenora	Glenora	カナダ北東部；1990年に創業；カナダで唯一のシングル・モルト生産の蒸留所；住民は今でもスコットランドやアイルランド語を話している
Highwood	Highwood (4), Centennial Rye	カルガリの南50kmの草原にある小さな村 High River；カナディアンのほか、大麦からも製造
Kittling Ridge	Forty Creek Barrel Select, Pure Gold (3), Canadian Company (4)	オンタリオの南東部近郊で、ナイアガラの滝から車で1時間の小さな村 Kittling Ridge；ワインの生産が中心で、他社からの蒸留酒をブレンドしたウイスキーも販売
Palliser	Black Velvet (6), Black Velvet (8)	アルバータの南部、米国国境に近い Lethbridge；Smirnoff Vodka も生産
Valleyfield	Shenley OFC (8), Gibson's Sterling Edition (6)	カナダの北東部ケベック州を流れるセント・ローレンス川の島にあり、フランス語を日常会話に使う唯一の蒸留所；UDV社の所有
Walkerville	Canadian Club	デトロイト川で、米国のデトロイト市の対岸にあり、創業者 Hiram Walker の姓に由来 (-ville はフランス語で村の意)、現在は Windsor 町の一部
Waterloo	Seagram 社の倉庫	以前は Seagram 社の本拠地であり、一時期博物館として使用

* () 内の数字は最小熟成年数



写真4 「BLACK VELVET」ブレンデッド・カナディアン（表2参照）

移って、自ら雑貨店を開き、次々と事業を拡大し、何軒もの酒屋を経営していたが、禁煙運動が激しくなると、カナダ領のデトロイト川対岸に広大な土地を購入し、蒸留所を作り、1854年、「ライ独特のコクをもち、アメリカンともスコッチともアイリッシュとも違うウイスキー」をアメリカ市場に送り出した。それがヒットして、高級な「紳士クラブ（Gentlemen's Club）」で評判になりはじめたのを機会に「Walker's Club Whisky」というブランド名をつけ、しかも当時としては画期的なラベルを貼ったボトルで売り出した。これが、さらに評判が評判を呼び、脅威を感じた米国の同業者が議会に圧力をかけたことから、アメリカンとカナディアンを区別するために法律を制定して、「Canadian Club」に名称変更され、「C.C.」の愛称でさらに人気が高まった（写真5）。

H. ウォーカー（写真6）は、従業員に会社の社宅を貸し与えるなど、ありとあらゆる地域事業を手がけて、人口600人のウイスキー造りの町 Walkerville（-ville は町の意）が自然発生的に誕生した。さらに、鉄道を敷設し、数年後にはデトロイトに住居を移すと、さらにデトロイトまでの連絡船



写真5 H. ウォーカー社が造るカナディアン・クラブ C.C. ブラック・ラベル

ラベル中央上部には王室ご用達と書かれており、英国王室のロゴが配されている。



写真6 晩年の Hiram Walker の肖像画（本文参照）

事業までも手がけた。こうして近隣の都市ウインザー（Windsor）への合併を嫌い、1890年には町全体を法人化して独立した。1899年、彼が83歳で亡くなった後もウォーカー一家が社業を続けているが、1933年には町の資産を手放し、その2年後にウォーカー村はウインザーに吸収合併された。

米国の禁酒法施行が、アメリカン、スコッチ、そしてアイリッシュ業界に大きな打撃を与えたにも拘らず、カナディアンの業界は逆に大きく成長し、ハイラム社は禁酒法解禁後も順調に売上を増して、今日なおカナディアンは米国市場でトップを維持している。